伊達市 全域の除染対策始動

アドバイザーに委嘱状

放射線対策として市内全域で除染作業を行う方針の伊達市が、市の除染アドバイザーに選んだ元原子力安全委員長代理田中俊一氏(六六)への委嘱状交付式は四日、市役所本庁舎で行われた。田中氏らの助言を受けながら、市は除染の計画やマニュアルをつくり、企業の協力も得て市民総出で放射線対策に取り組む。

仁志田昇司市長が田中氏に委嘱状を手渡し、「元の伊達市に戻すため膨大な時間と費用は掛かるだろうが、パイオニアとして取り組みたい」と述べた。田中氏は「除染に特効薬はないが、実現できると信じている。住民と共に連携していきたい」と意気込みを語った。

仁志田市長から委嘱状を受ける田中氏（右）

市は放射線対策として除染と健康管理を二つの柱としており、健康管理アドバイザーとしては福島医大教授の宍戸文男氏を選任している。六日に委嘱状を交付する。

実行部隊組織し実践　田中氏

田中氏は委嘱を受けた後、仁志田市長や庁内の放射線対策プロジェクトチームの職員と懇談した。除染計画や策定したマニュアルを基に、業者や市民、ボランティアの実行部隊を組織して、除染を実践する方針を示した。

田中氏は「国などは動きが遅く、各省庁などの基準や考えもバラバラ。自治体でできることは率先していきたい」と述べた。その上で、「一番の課題は廃棄物の置き場や最終処理。管理型の仮置き場などが必要」と訴えた。協力を申し出ている全国の専門家にも声を掛けるという。

仁志田市長は除染は「市内全域、農地や山野も視野に入れていく」と範囲についてあらためて語った。費用は、市独自でできる部分を行い、最終的には東電や国に請求していく考えを明らかにした。さらに除染対策本部を設ける計画と除染方法の説明会を検討していることも示した。

東大医科学研

表土2倍、側溝5～10倍…

校内線量の「目安に」

南相馬、相馬の小学校調査

学校周辺の地上一メートルの空間放射線量と比べ、東京大医科学研究所や現地の医師らが線量を調べるよう夏までに工事としている。

東大医科研の坪倉正

補正予算千万円を盛あづま総合他、須賀川の福島空港若松市の会市のいわき市の逢瀬公園このうち、運動公園で

学校の放射線量の目安

教室（鉄筋コンクリート）	0.1倍
グラウンドの土表面	2倍
アスファルト表面	1.5倍
側溝	5～10倍
雨どいの下	10倍

※学校周辺の空間線量（高さ1m）と比べて。東京大医科学研究所・坪倉医師らの調べ

空間線量と同程度。掃除道具入れはやや高かった。アスファルトの表面は一・五倍、校庭のブランコ下の水たまりは二～三倍、雨どいの下は十倍だった。

坪倉医師は「数値が高い場所は水で洗い流

5都市公園の芝や表土除去へ

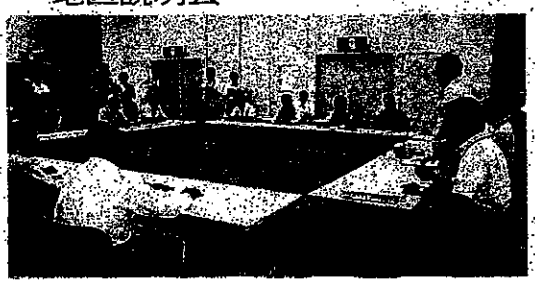
県議会常任委で県

県は福島市のあづま総合運動公園など管理する五つの都市公園で、毎時一・〇マイクロシーベルト以上の芝や表土を除去する。四日、県庁で開かれた県議会土木常任委員会で示した。県は、子どもたちが屋外で遊

「コミュニティー壊れる」

月館地区の相馬会説明　意見、要望相次ぐ

国の特定避難勧奨地点に一部が指定された伊達市月館町の相馬



た。「コミュニが壊れてし定がなくて